

平成28年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース
教育実践学専修

沖縄県内地域指定推薦

共通問題

沖縄県内高校推薦

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

非公開

(大田堯, 「問」と「答」との間—教育の危機について考える—,
『学力とはなにか』, 国土社, 1990年, 170~172ページ, 抜粋・一部改変)

- 問1 著者は「問と答との距離が非常に短くなっている」という表現で, どのような「日本の教育危機」を表そうとしているか, 300字以上, 400字以内で述べなさい。
- 問2 あなたが考える「問と答との距離が非常に短くなっている」原因について, 500字以上, 600字以内で論じなさい。

平成28年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

教育実践学専修

沖縄県内地域指定推薦

共通問題

沖縄県内高校推薦

出題の意図

学校教育社会の社会病理の1つとして、「答えの用意された問い」への慣化があげられる。これは現代においても、未解決のまま持ち越され、他方でさらに、全国学力・学習状況調査、特にそのA問題の結果に一喜一憂する沖縄県における学校教育界の現状に鑑みれば、その病理の深刻化は助長されつつさえある。

このような現況の中、本県の教育を担う教師には、実践的な立場からの適切な問題把握とその追究を行えることが求められる。本試験では、既存の教育言説についての共感的把握能力および把握した問題に関する自らの見解を導く分析的思考力を評価する。

この問題の趣旨は、教育学部学校教育教員養成課程の「入学者受入方針（アドミッションポリシー）」の1つである「教員として子ども及び社会と関わっていきたい人」に該当する。